
アルバイト

ココロオドル

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】
アルバイト

【Nコード】
N8274P

【作者名】
ココロオドル

【あらすじ】
毎日を平凡に過ごしてきた男、河井航佑の人生を変えた、とんでもない内容のアルバイトとは…

（前書き）

初めてつくった小説です、おかしな点が多々あると思いますが、どうか最後まで読んでください、よろしくお願いします。

ハアハア……

乱れた息が聞こえる林の中を全力で走る男
そして男は言った

「クソッなんなんだよ」

後ろから追いかけてくる足音

木の後ろに座りこみ息を整える

「なんでこんなことになったんだよ」

そうこの男、河井航佑がこんなにも苦しい思いをするようになった
理由は

6日前のことである…

はあゝ

今日で何回目のため息だろうか数えてもないがすごい数のため息を
していると自分でも実感している

今、自分の歳は23歳まだ若いと言えば若いのだが自分は無職だ

生活は実家で暮らしているので不自由はないのだが…

親に迷惑をかけると言うのも情けない話だ

なんとか大金を手に入れて人生のチャンスをつかみたい

だが無職で大金を手に入れるのは難しい話だ

はあゝ

またため息だ…

その瞬間

「うわあゝ」

ものすごい大風が吹いた

そして航佑の顔に飛んできた紙

大風で飛んできたようだ

どうでもいいが暇なので内容を読んでみる

そこには航佑には想像できない内容が書かれてた

「なんだよこれ……」

アルバイト募集中

1日で60万円

募集期間は9月30日～10月30日
アルバイト期間は5日間

今日は何日だ！？

携帯でたしかめる

「10月29日だまだ間に合う」

航佑はどうみても怪しい内容にも関わらずすぐに紙に書かれてる電話番号に電話した

電話の向こうから聞こえてきた声

男性の声だ

「もしもし、アルバイト募集中のチラシを見たのですが……」

「はいアルバイト募集ですね明日が締め切りなんですけどどうなさいますか？」

航佑は考える暇もなく言った

「アルバイトやります、やりたいです！……」

電話の向こうからテンションが高くなった声で

「わかりましたでは今から指定する場所に来てもらってもよろしいでしょうか？」

時間ならありあまるほどある…

「わかりました今なら大丈夫です」

「では廃校になった学校がありますよね？」

「ああはいわかります」

そこは俺の母校だ

「ではその近くの港に来てもらっていいですか？」

「わかりましたすぐ行きます」

航佑はすぐ電話をきった

そして近くにあるタクシーをひろって

すぐさま向かった

そして着いた港には男性が1人いた

「もしかしてさきほど電話された方ですか？」

「はい、そうです」

「お名前のほうおうかがいします」

「河井です、河井航佑です」

「では河井様もう少して船がくると思っているので少しお待ちください」

船？どこかに行くのだろうか？

「では最後にご確認しますが5日間はまだここに帰ってこないの
でいろいろご確認を」

5日間もどつてこない？どゆうことだ？

「今からくる船でまず河井様にはある島に行ってもらいますそこで
5日間あることをしてもらいます」

「何をするのか教えてもらえますか？」

「すいませんがそれはできません」

航佑は少し不安になった…

だが大金が手に入るのだ5日間なにをしても頑張つてやると思った

「わかりましたとにかく島に行けばいいんですね？」

「はいそうですちょうど船が来ましたではお乗りください」

航佑は船に乗ったそして疲れてるせいか深い眠りについていた。

何時間のつていただろうか航佑が目を覚ますと朝だった

「いつのまにか寝てたのか」

そして起きた瞬間、航佑は驚いたそうここは海のと真ん中大きい島が目にとびこんできた

「なんだよこ……」

そして港らしき場所に船がとまった航佑はおそろおそろ船から降りた

そこにはまた男が1人いた

「河井様ですね？お待ちしていました今から皆様がお待ちしてる場所にご案内したいとおもいます」

皆様？俺だけじゃないと思ってはいたが何人ぐらいいるんだろう？

「すみません何人ぐらい僕以外にいるんですか？」

「あなたを合わせて10人です」

10人？それだけか

「ところで僕たちはここでいったい何をすればいいんですか？」

「簡単なことです10人で大金を手に入れるため争ってもらいます」

争う？大金とはアルバイト募集用紙にあった給料のことか？

「それはゲームですか？」

「まあ…そんなところですね」

「ゲームって言うのもおかしいな!？」

「ただしルールがありますのでそれはまた後日、説明させてもらうので今はこの待合場所で待機しててください」

いつの間にかついていた、館? いや一軒家だ一般家庭がすむような場所だ

「では中でお待ちの皆様とお話でもしながら休憩しててください」

お話?これから殺しあうと言われたのにお話だと? ふざけるな

「ではまた後日お会いしましょう」

航佑はどんなゲームをするのかと正直、不安でいっぱいだった

航佑はドアノブに手をかけた中には男2人と女が2人いた

あれ? たしか男は10人といっていたはずだが自分を会わせて5人しかない

どうゆうことだ? 航佑は疑問をいだいた

だかある男の一言で理解した

その男はソファに座っていたいかにも力がありそうな

動物にたとえるといかにも「ゴリラ」だ

「なんだよ」最後の男がこないかにもひ弱そうな男で大丈夫かよ
「チーム戦じゃなくて個人がよかったぜ」まったくなんなんだよ」

チーム戦？もしかしてこの5人であとの5人とゲームするのか？

航佑が悩んでいるとさっきの男が入ってきた

「ではこの殺しあいのゲームのルールを説明します」

殺しあい？なんだそれは冗談で言ってるのか？それとも本気で？

「まずあなたがたの中にわかってる方がいると思いますがこれはチーム戦です、衣・食・住を共同してこの5日間ともに生活してもらいます、次に相手チームを襲っていいのは午前10時～午後6時までですもちろんこの島には武器などはありません殺す方法は自分たちで決めてくださっていいです殺すための道具も自分たちで勝手に作ったりしてください、では以上です」

なんだそれそんなルールの中いつ襲われるかもわからないのに10時～6時の間？8時間もあるなかで殺しあうのか？5日間？え、毎日8時間だと合計で40時間！？約2日間分の時間だ自分も必ず何回か襲われるだろう、そんなの無理だ絶対チームの中の誰かが1日目ですべて死ぬという考えが頭をよぎった…

だいたい大金のためだからって

そんなことのために人は殺せない…

「あの手やっぱり僕こんなことしたくないんですけど……」

せいっぱいの勇気をだして言ってみた

その瞬間ほかの4人からにらまれた、そして男からも一度アルバイトを始めたらもう終わることはできませんと言われてしまった…

「でも人は殺したくないです」

「なぐんだそんなことでビビってんのか？」

ゴリラ男が言った正常か？普通、人を殺せと言われて驚かないほうがおかしいだいたいほかの3人もおかしいなぜ驚かない？男はまだしも女もいるのにここにいる奴らは頭がどうにかしてる…

俺は決心した絶対この5日間だれも殺さないずっと逃げ延びてやるそう決意した

こんな頭のいかれた奴らと一緒になるもんか

そして男が言った

「あらかたルールは説明しました、では皆様明日から頑張って相手チームを殺してください」

そしてその夜僕は一睡もできず朝をむかえた

ほかの4人は今か今かとゲームスタートを待ち構えていた

そして時間がたち時計の針は10時になったそのとたんなりだした

サイレンそのあとに続く聞き覚えのある男の声…

そしてこう言った…

「みなさま死のゲームが始まりました両チームとも今から8時間大金めざして頑張ってください」

こうして1日目の死のゲームがスタートしたのだ

俺は自分の決意をくずさない誰も殺さず絶対にこの島から逃げ切つてでやる

そしてほかの4人は走りだしたただ1人僕をおいて

～END～

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n8274p/>

アルバイト

2011年1月4日02時26分発行